

特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業事業報告書（概要版）

神戸市

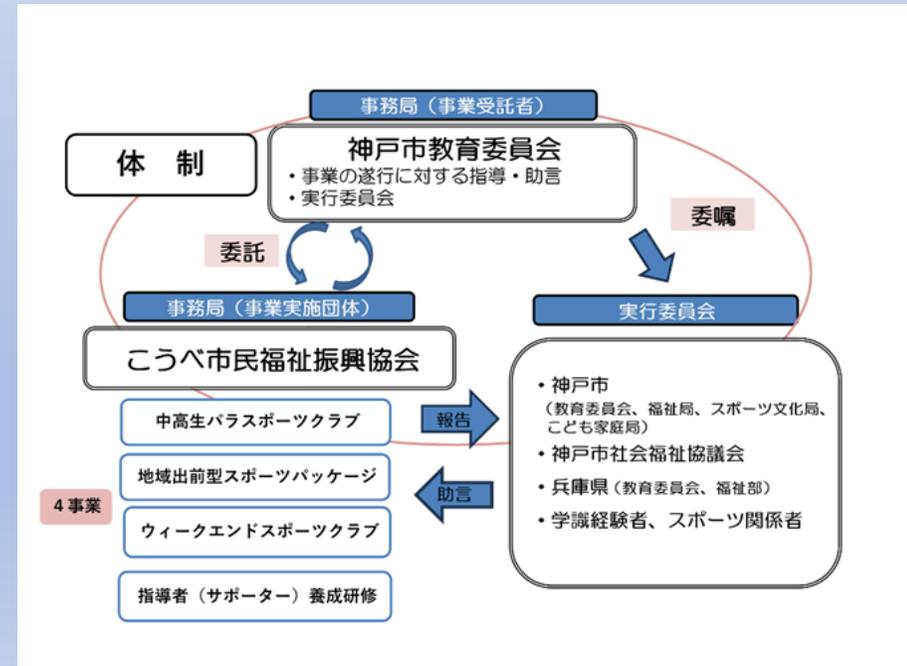
I. 事業概要

神戸市では市域を6エリアにわけて通学する市立・県立特別支援学校を設定しており、運動部活動の地域移行については6つのエリアに各1か所の実施を目指したいと考えた。

令和5年度は、令和4年度に実施した「中高生パラスポーツクラブ」モデルによる、特別支援学校の生徒を対象に放課後、障害者に配慮されたスポーツ施設のあるしあわせの村まで送迎し、運動を提供する事業を軸に、運動部活動の地域出前型のモデル実施や週末の運動機会の提供のモデル事業により、運動部活動の地域移行のかかるニーズ把握、課題把握に努めた。

実施体制および実施事業

- ①障害者に配慮されたスポーツ施設における放課後の運動機会の提供（中高生パラスポーツクラブ）
- ②ニーズがある市内の特別支援学校を対象に、経験・ノウハウのある専門スタッフを特別支援学校へ派遣する「地域出前型スポーツパッケージ」のモデル実施（新規）
- ③週末に運動機会を提供するウィークエンドスポーツクラブ（新規）
- ④指導者等の養成



II. 中高生パラスポーツクラブ

概要

- ・ 対象者：神戸市立特別支援学校等（中学・高等部）に在籍する生徒
- ・ 日程等：令和5年9月～12月 平日／放課後（専用バスで学校・拠点⇔会場を送迎）
- ・ 種 目：卓球、ダンス、テニスから1種目を選択
- ・ 参 加：①青陽須磨支援学校 ②友生支援学校 ③神戸大学附属特別支援学校
- ・ 実施回数：1校あたり全5回（計15回実施）
- ・ 参加人数：37名(実参加数)／延164人

お子様の参加後の様子（保護者アンケートより）

- ・ 今まで身近になかった競技を体験出来て視野が広がったように思います。
- ・ すごく楽しかったようで、パラスポーツクラブから帰ってきた時はいつも以上によくしゃべり、笑顔が増えたように思いました。



II. 中高生パラスポーツクラブ 地域出前型スポーツパッケージ（モデル事業）

概要

- ・ 対象者：市内特別支援学校で体育館など運動施設の利用が可能な学校の中高生
- ・ 日 程：令和5年9月～12月
- ・ 種 目：卓球、ダンス、バドミントンから1種目を選択
- ・ 参 加：①灘さくら支援学校、青陽灘高等支援学校 ②いぶき明生支援学校
- ・ 実施回数：1会場あたり全5回（計10回実施）
- ・ 参加人数：計29名（実参加数）／延132人

お子様の参加後の様子（保護者アンケートより）

- ・ 習い事をさせたいけど、やっぱり少し気が引けてしまってできないのでこういう機会はとてもありがたいです。
- ・ バドミントンをする機会が増えた。
褒められた話しや上手くできた事など、自信が持てたよう。



Ⅲ. ウィークエンドスポーツクラブ

概要

- ・ 対象者：市内在住の特別支援学校（県立等含む）や特別支援学級、通級指導教室利用の中高生
- ・ 日程等：令和5年10月～12月 土曜日実施
- ・ 種 目：卓球、ダンス、陸上
- ・ 参 加：①県立特別支援学校 ②市立特別支援学校 ③市立特別支援学級
- ・ 実施回数：全6回
- ・ 参加人数：計15名（実参加数）／延68人

お子様の参加後の様子（保護者アンケートより）

- ・ 休日の余暇を有意義に使うことが増えた。
- ・ 学校でも上達したと言ってもらい、今まで以上に楽しめるようになった。



IV. 指導者等の養成

概要

- 対象者：18歳以上
- 市内で障害児・者への運動提供に関わる意欲のある方、パラスポーツの指導・支援に関心がある方
- 日程等：令和5年11月～12月 土曜日実施
- 内容：①講義「アンガーマネジメント」 ②講義「特別支援学校における運動部活動のマネジメント」
③ウイークエンドスポーツクラブ参加
- 実施回数：全3回 ・参加人数：計13名（実参加数）

研修受講者の満足度

回答 9名 / 参加 13名（回答率69.2%）

①講義「アンガーマネジメント」

	1. とてもわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. どちらでもない	4. わかりにくかった	5. その他
回答数	6名	2名	1名	0名	0名

②講義「特別支援学校運動部活動のマネジメント」

	1. とてもわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. どちらでもない	4. わかりにくかった	5. その他
回答数	5名	4名	0名	0名	0名

③ ウィークエンドスポーツクラブで実践

	1. 期待どおりだった	2. 期待したほどではなかった	3. よくなかった	4. その他
回答数	9名	0名	0名	0名

V. まとめ

実施体制について

- ・ 神戸市教育委員会が事務局を務め、障害者スポーツ関係団体等と連携しながら事業を実施した。
- ・ 立命館大学 教授 金山千広氏、神戸親和大学 准教授 宮辻和貴氏にアドバイザーとして事業に参画いただき、実施プログラムや養成研修の内容、受講対象者への広報など多岐にわたって助言をいただいた。
- ・ 運動指導者はしあわせの村共同事業体事業者の他、市内のNPO団体や競技団体など多様な方に参画いただいた。

実施内容について

- ・ いつ開催するかについては、保護者アンケート調査では「平日の放課後」の回答が多かった。
- ・ 通っている支援学校を会場とすることで会場への移動時間分がなく、送迎の手配や費用などの負担も軽減できるため「支援学校会場」で「平日の放課後」に開催するメリットは大きい。

特別支援学校や保護者との連携について

- ・特別支援学校を会場に開催する場合は、各学校の理解や協力を得るとともに、事業実施サイドにおいては最近の教員の働き方改革などへの理解が求められる。
- ・今回は会場設営から片付けまですべて委託事業者側で対応し、教員にはほとんど負担をかけずに開催できた。

地域連携・地域移行について

- ・地域連携や地域移行にあたっては、指導者の障害理解は重要であると改めて認識された。
- ・指導者等の養成の講座に参加されたような関心の高い支援者をどう育て、活動参加につなげていくか、その仕組みづくりも重要になってくる。

満足度について

- ・本事業を実施することで達成を目指す目標として、生徒、保護者の満足度調査において「満足している」の回答80%以上を目指すことを設定していた。

1.参加者（生徒）の満足度 Q.たのしかった（「はい」、「まあまあ」、「いいえ」から1つを選択）

回答数 355名／延参加者数 364名（回答率 97.5%）

参加者数	延参加数	回答数	はい	まあまあ	いいえ	満足度
81	364	355	345	9	1	97.1%

2.保護者の満足度

(1) 中高生パラスポーツクラブ

回答26名／参加 37名 (回答率70.2%)

とても楽しんでいた	楽しんでいた	あまり楽しんでいなかった	楽しんでいなかった	満足度
23名	3名	0名	0名	100%

(2) 地域出前型スポーツパッケージ

回答23名／参加 29名 (回答率79.3%)

とても楽しんでいた	楽しんでいた	あまり楽しんでいなかった	楽しんでいなかった	満足度
20名	3名	0名	0名	100%

(3) ウィークエンドスポーツクラブ

回答 7名／参加 15名 (回答率46.6%)

とても楽しんでいた	楽しんでいた	あまり楽しんでいなかった 楽しんでいなかった	わからない	満足度
4名	2名	0名	1名	85.7%

VI.成果

指導に参加した団体の多くは障害者への運動指導経験があったが、初めての団体においても、当初は指導者の指示どおりに運動ができる生徒に集中しやすい傾向がみられたが、回数を重ねるなかで指導者側の変化が見られ、生徒が競技を楽しめる工夫がされていった。

<例>

- ・子どもが興味を持つ選曲（競技をする中で会話から引き出していく）

運動活動の会場について、今年度は「しあわせの村会場」と「特別支援学校会場」を設けたが、時間的な余裕ができること、通いなれた場所で生徒も保護者も安心して参加できることなどから、生徒が通う支援学校で実施する方が効果的であると考えられる。

VII. 今後の方針

令和6年度の事業実施にあたっては、障害者スポーツの機会を幅広く提供してきた実績がある神戸市障害者スポーツ振興センターが実施主体となり、利用者のニーズの高い特別支援学校における事業展開を予定している。また、ボッチャ等様々なスポーツ体験を定期的に提供することで、パラスポーツの楽しさや魅力を体感していただくことを目指す。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として神戸市が実施した令和5年度障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

神戸市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課 上野・野口
電話（078）984-0734